

ムササビ

山本幸介



ムササビ 静岡市にて撮影

「ムササビ」という動物をほとんどの方はご存知だと思います。しかし、名前は知っていても、実際にご覧になったことのある方は、そう多くはないのではないのでしょうか。というのも、ムササビは夜行性動物であり、私たちの普段の生活では目撃する機会が少ないのです。また、静岡県ではそもそも生息域が限られ、個体数も減少していると考えられています。

私が初めてムササビを見たのは静岡市の郊外にある神社でした。神社にはたいてい“御神木”といったような樹齢が長く幹の太い木が残っていることが多いため、ムササビの住処となる樹洞が存在し、ムササビを観察するには“持って来い”の場所なのです。私が訪れた神社にも大きな椎の木がありました。またこの神社は山沿いに立地していて、こういった環境もムササビが棲息できる条件となります。

ムササビが巣から出てくる時刻は日没から約30分後です。これはどこの地域でも同じだそうです。ですので、日の長い夏は出巢する時刻も遅くなり、日の短い冬は早くなります。私は4月と5月に1度ずつ観察に行きましたが、それぞれだいたい日没後40分後を目安に行ったら、2回ともムササビに出会うことができました。ちょうど樹洞から出てきて“自宅”付近でうろうろする時間帯だったのでしょう。時折「グルルル」と鳴き声も聞こえ、こういった鳴き声もムササビを探す上でのヒントとなります。あたりは真っ暗なので懐中電灯の光を当てると目が反射するので、ムササビがいればすぐに分かります。光を当てられても逃げることなく、その場にじっとしていることが多いので、望遠レンズとストロボがあれば写真撮影は、そんなに難しくありません。撮影を終え一旦その場を離れて、しばらくして戻ってみると、ムササビは先程の場所からさらに樹冠の方向へ移動していました。恐らく私がいなくなったのを確認して移動を始めたようで、随分と用心深いようでした。

ムササビといえば、やはり“滑空”する姿を見てみたいものですが、そんなに絶えず飛んでいるわけではないので、しばらく待つ必要があるでしょう。また飛んだとしても一瞬の出来事なので、ちょっとでも目を離してしまったり、再び滑空するまで長い時間待つ羽目になります。ましてや、カメラに収めるのは至難の技でしょう。残念ながら私はこれまでに滑空姿を見る事ができなかったため、この神社にはこれからも何度となく通い詰めることになりそうです。もし念願叶ってムササビの滑空を見ることができたら、この自然史しずおかで紹介したいと思います。